

海の道むなかた館長 西谷 正

第5回 II. 周防灘(1) 弥生文化の始まりと小国の形成

I はじめに

旧石器・縄文時代の^{みやこ}京都平野

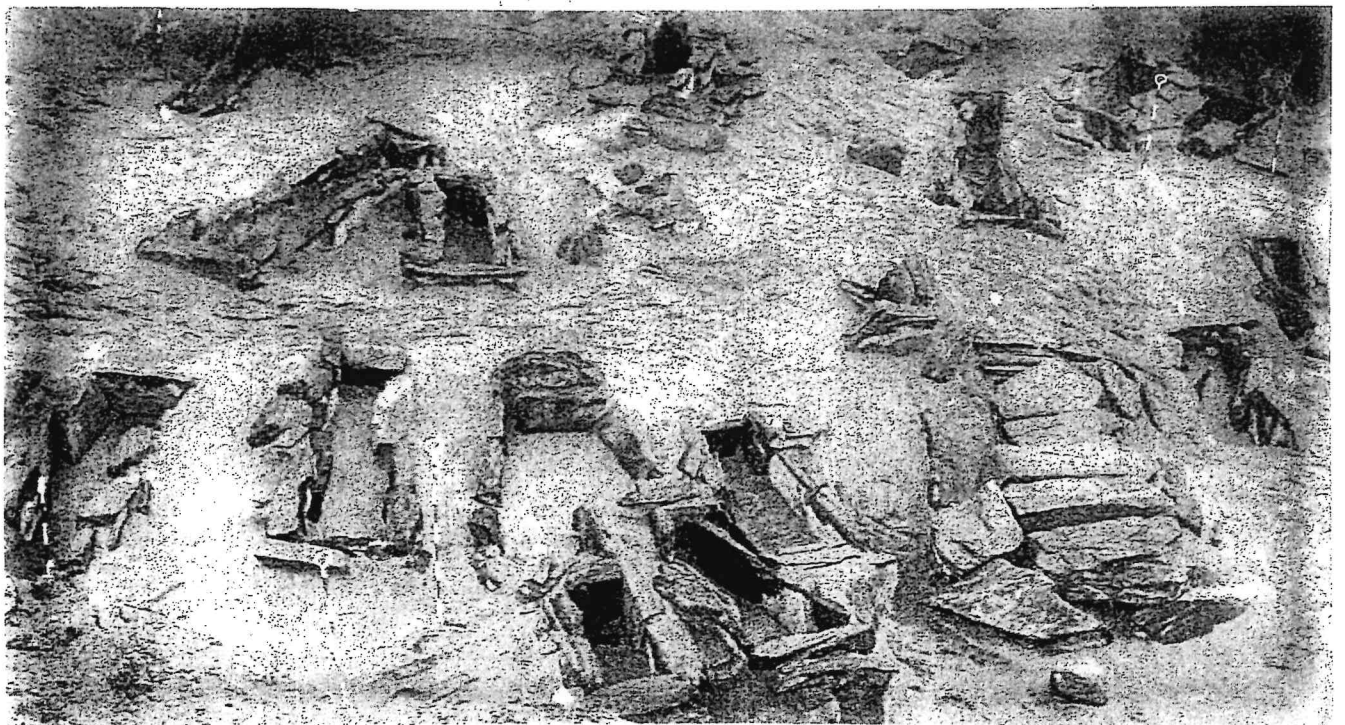
II 弥生時代—稲作と金属器の文化の伝来と波及

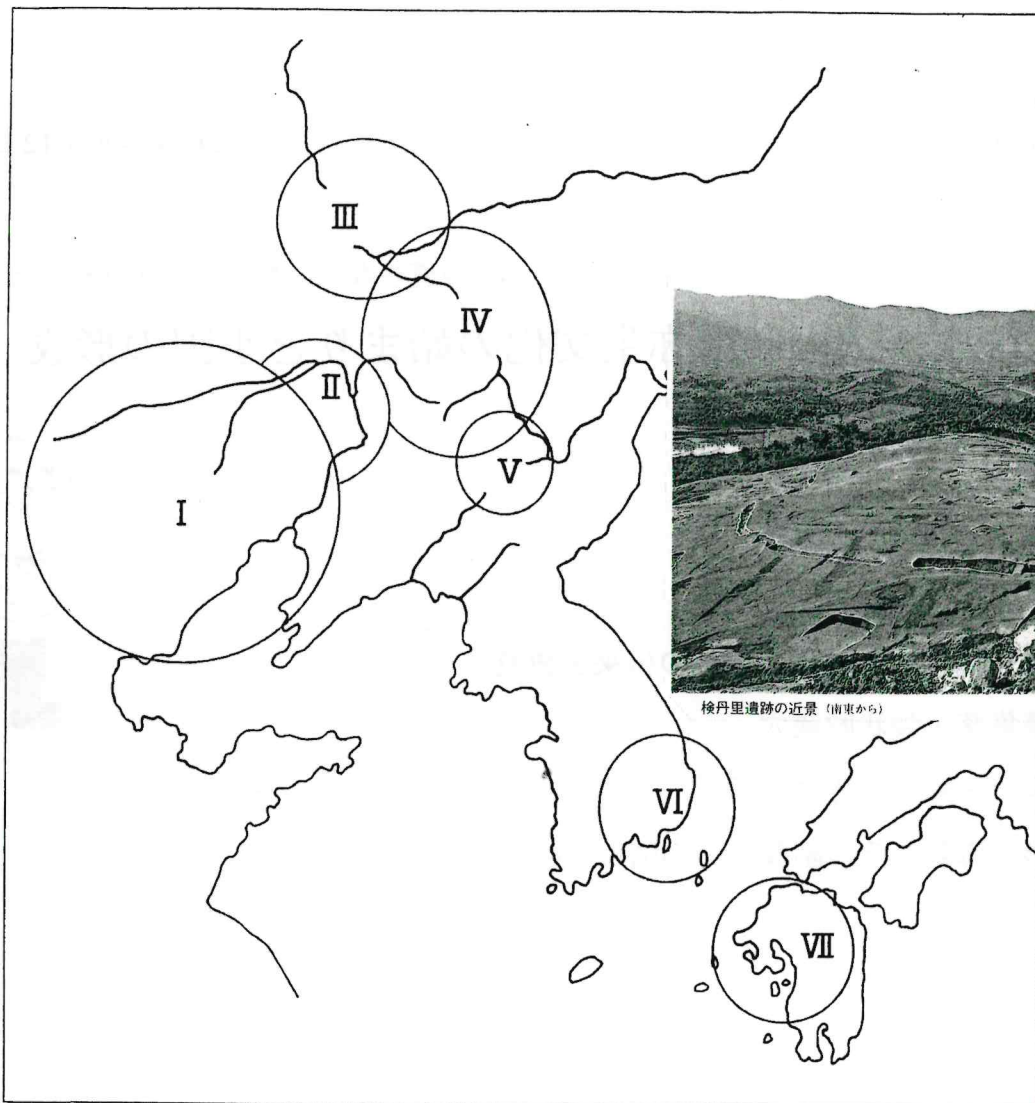
- (1) 環濠集落・袋状貯蔵穴
- (2) 青銅器・鉄器と無文土器
- (3) 方形周溝墓とその副葬品—小国の形成



III おわりに

^{みやこ}京都・仲津郡域の考古学



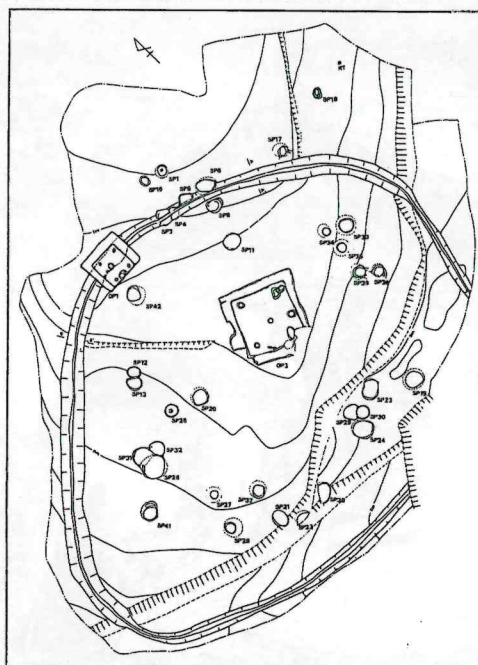


中国東北地方および朝鮮半島・日本列島における環濠集落の伝播経路
 I 遼西区 II 下遼河区 III 嫩江中下流区 IV 第二松花江流域区
 V 渾江流域区 VI 朝鮮半島南部地区 VII 日本九州地区

葛川遺跡…荊田町大字葛川、標高20m前後の舌状の低丘陵上に所在する環濠集落である。現地の発掘調査は1982(I地区)～83(II地区)年に宅地造成工事に先行して実施された。

I地区では弥生前期中葉(板付Ⅱa式)の貯蔵穴35基と1条の環濠が認められた。環濠は丘陵先端の地形に沿って卵形に巡り、溝の断面はV字形を呈す。その規模は濠の底で57m×43mを測り、横断面の黄色粘土混じり土層が外の方が高いから、外土手と思われる。貯蔵穴は環濠の中に収まるものと、環濠を切るものの2者がある。前者は環濠で定めているが、後者は貯蔵域が拡大した。

貯蔵穴や環濠から出土した土器は、板付Ⅱa式土器の典型で、豊前地方の基準資料である。この他に溝からは土器や獣骨や貝殻などの食物残滓などの生活廃物が出土しており、住居域と近接していた。



葛川遺跡の遺構配置図(報告書より)

豊前地方の位置と概要

1、豊前地方位置

豊前地方は九州の東北部、東西に長い瀬戸内海の西端の周防灘に面して位置する。当国の西には筑前国、南が豊後国と接する。北部は関門海峡によって長門国と隔てる。

2、国号と国の概要

『国造本紀』によれば、豊国造宇那足尼と宇佐国造宇佐都彦命がいたと記されている。『豊後国風土記』には「豊後の国は、本、豊前の国と合わせて一つの国たりき」とあり、国号の由来として豊国直らの祖ある菟名手に国を治めさせたところ、仲津郡中臣村（『倭名抄』の同郡中臣郷か）に至ったとき白鳥が飛来して餅となるなどの祥瑞が現れたのを朝廷に奏上し、景行天皇より豊国の名を与えられたとある。この豊国がのちに豊前と豊後に分かれた。

豊前国がみえる早い事例は、大宝2年（702）の豊前国戸籍である『正倉院文書』が、『続日本紀』文武天皇2年（698）9月28日条に「豊後国真朱」が献じられたとみえており、7世紀末には豊前と豊後に分かれていたとされる。『和名抄』は豊前を「止与久邇乃美知乃知」と読み、国内には企救・田河・京都・築城・上毛・下毛・宇佐の8郡があった。同書諸本のうち東急本などは本田13,200町とし、名博本が17,377町とするが、『色葉字類抄』をはじめとする史料は13,200町ほどで、建久豊前岡田帳断簡写『湯屋文書』も13,300町とする。国府の所在地は『和名抄』に「国府在京郡都」と記されているが、国分寺は仲津郡内にあり、近年の発掘調査で、同寺近くから国府と推察される遺構が確認されており、本来は仲津郡に所在したとされる（但し出土土器などから8世紀中頃～11世紀）。『続日本紀』同歳12月20日条によれば、国分寺は天平勝宝8歳（756）に他の25カ国とともに仏具が下賜されているから、この頃の建立とされる。国分寺料は『弘仁式』に2万束、『延喜式』で14,272束であった。

上述した豊前国の成立時代

は、おおよそ文献史学にみえる時代であるが、それをさかのぼる時代は、どのようなものであったろうか。近年の考古学的な調査によって判明しつつある初期農耕文化の一端をうかがっておこう。

豊前地方の報告は、下記のように『倭名抄』に記された豊前8郡を単位としたことを明記しておく。

- ①…旧企救郡域 ②…旧田河郡域 ③…旧京都郡域
④…旧仲津郡域 ⑤…旧築城郡域 ⑥…旧上毛郡域
⑦…旧下毛郡域 ⑧…旧宇佐郡域

3、弥生時代社会とは

弥生時代とは採取民から農民、つまり農業のルーツといっても過言でない。採取社会と農耕社会とを比較すると、弥生社会の本質は人と自然、人と人、文化と文化が本格的な分裂と対立し、競合の果てに統合と支配関係が待っていた。大地や森を人々が改変して水田と化した時代でもある。その果てに、働いた指導者が人々を支配する首長へと転化していった。この時代の人々は東アジアの国際社会に初めて登場し、中国の史書に日本列島に住んでいた倭人のことが記されている。海を越えた交渉の結果、中国王朝を中核とした冊封体制と称される国際秩序に組み込まれた時代でもある。



豊前地方主要遺跡分布図（縮尺1：200,000）

< 参考文献 >

有馬 学・川添 昭二編 2004年『福岡県の地名』日本歴史地名体系第41巻 平凡社
 苅田町教育委員会編 2007年『瑞穂の国の成立Ⅰ』-豊前地方出土青銅器- 苅田町歴史資料館特別展示図録



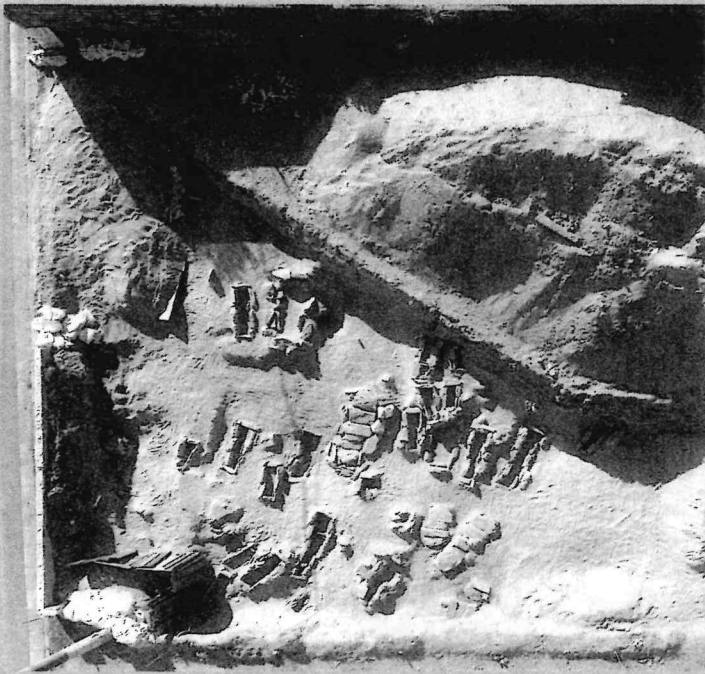
旧京都・仲津・築上郡域主要遺跡分布図 (縮尺 1/100,000)

苅田町歴史資料館, 2008 『瑞穂の国の成立Ⅱ 豊前地方出土品』

令和三年度行橋市歴史資料館特別展

弥生の墳墓

—ムラからクニへ—



長井遺跡空撮
(右が北)



長井遺跡出土 1号石棺 (手前が北)



長井遺跡出土 24号石棺足元の人骨 (右が北)

ながいせき ながいはま ふんぼく
長井遺跡は、長井浜海水浴場付近に連なる海浜砂丘上に広がる弥生時代の墳墓群です。発見は
今から62年前の昭和34年(1959)で、重機で海砂採取をしていたところ、そこから500基を
超える数の箱式石棺群や甕棺、弥生前期の壺・高坏などが散乱した状態で見つかりました。

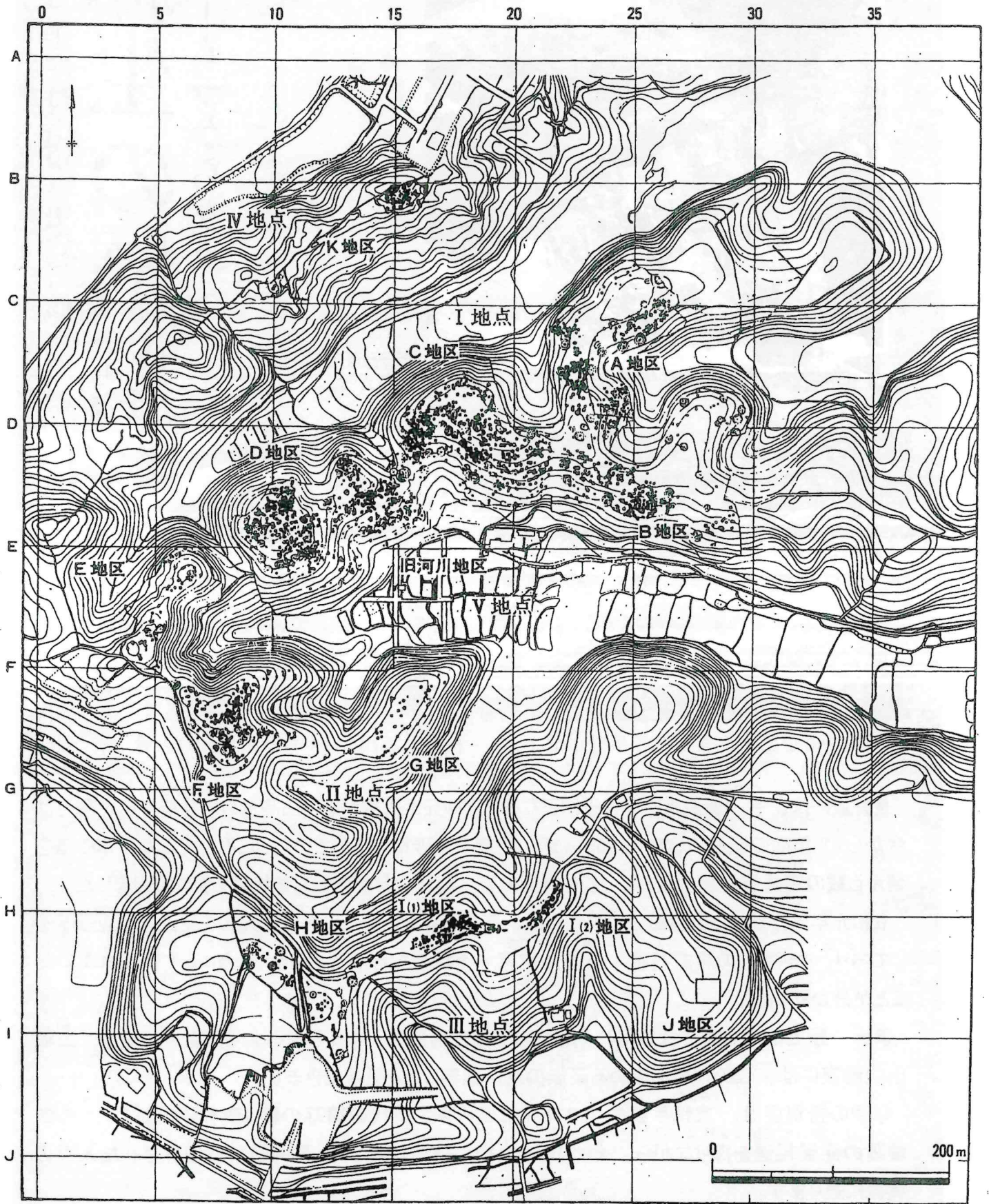
令和元年に行われた市道部分の調査では、箱式石棺など新たに36基あまりを発見、発掘調査を
しており、たくさんの箱式石棺・石蓋土坑墓・土坑墓などが重なり合うようにして築かれていた
ことが分かりました。

また、最上部の墳墓では方形に溝を廻らす方形周溝墓と考えられる1号石棺を発見し、古墳
出現前夜には、この地域を治める豪族の墓が出現したと想像できます。

今回の特別展は、みやこ
2021.10.30～2022.1.10
京都平野の700年余に渡る弥生時代の墳墓の移り変わりを検証し、弥生
墳墓の発展経過を探りながら、わが国最大級の弥生墳墓群、長井遺跡に埋葬された人々の
実像に迫ります。

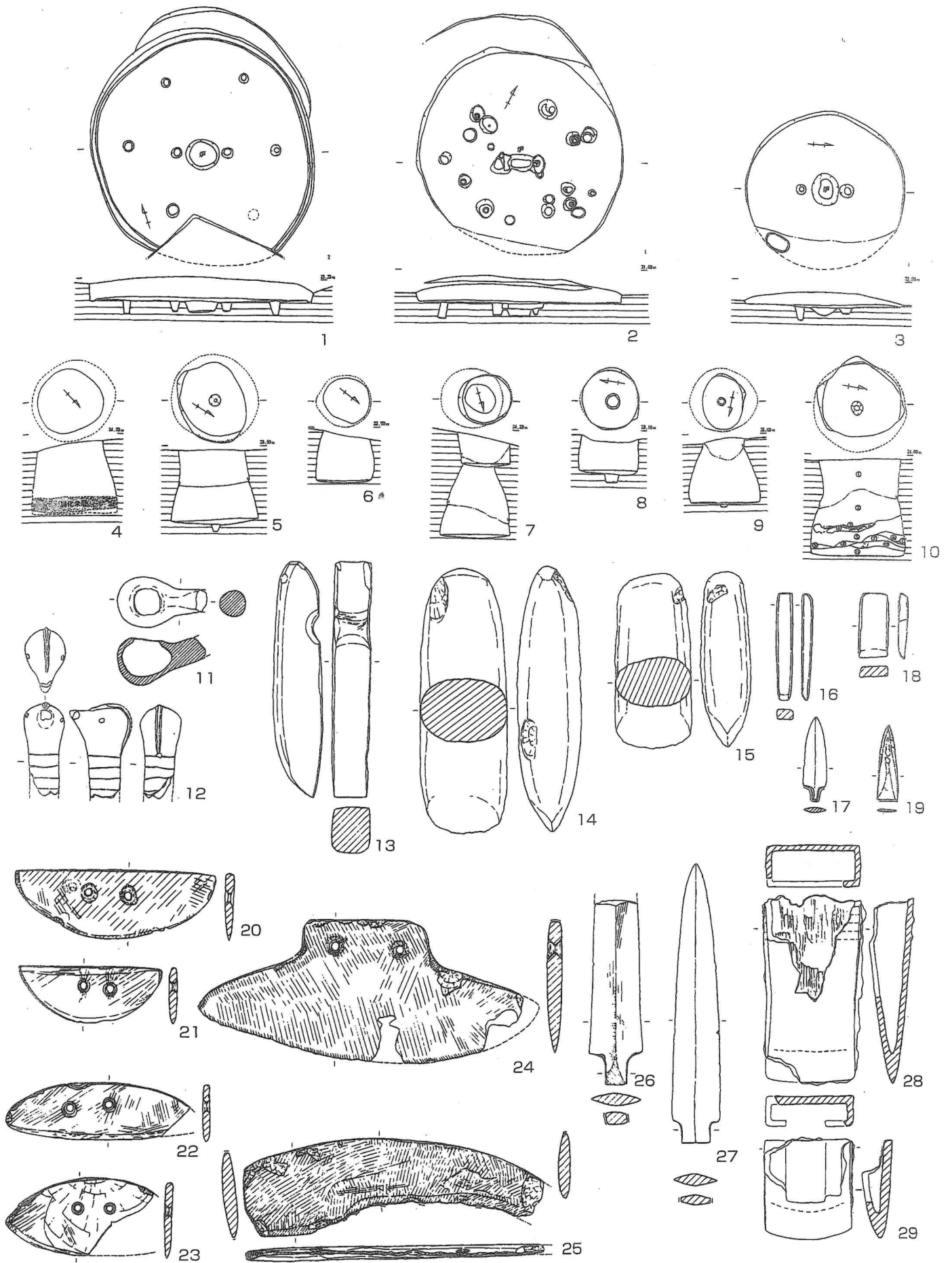
< 参考文献 >

行橋市教育委員会編 1985年 『下稗田遺跡』 行橋市文化財調査報告書第17集

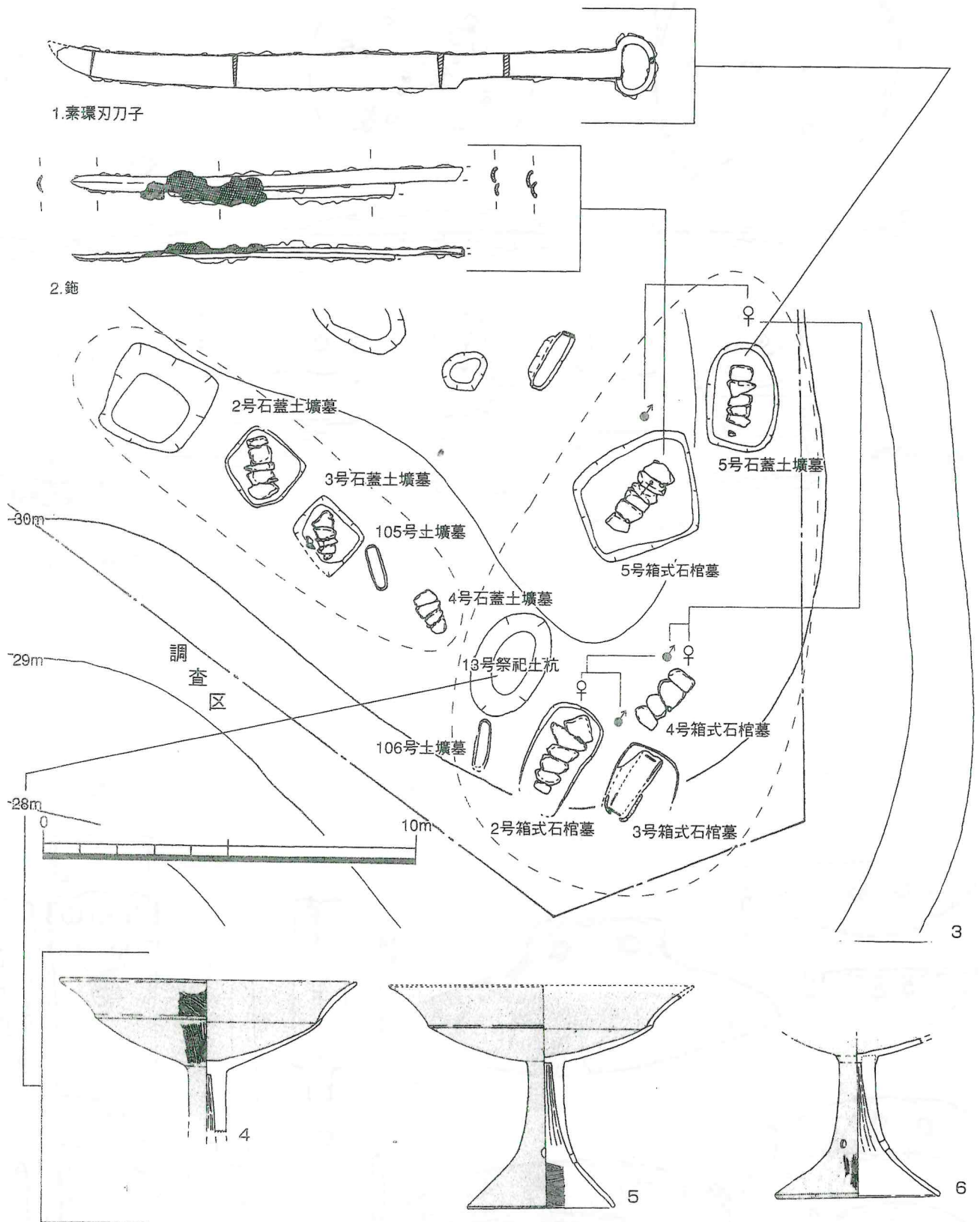


下稗田遺跡全測図 (弥生時代前期~中期) (縮尺 1/5,000)

新田町歴史資料館, 2008 『瑞穂の國の成り立ち II 豊前地方出土品』

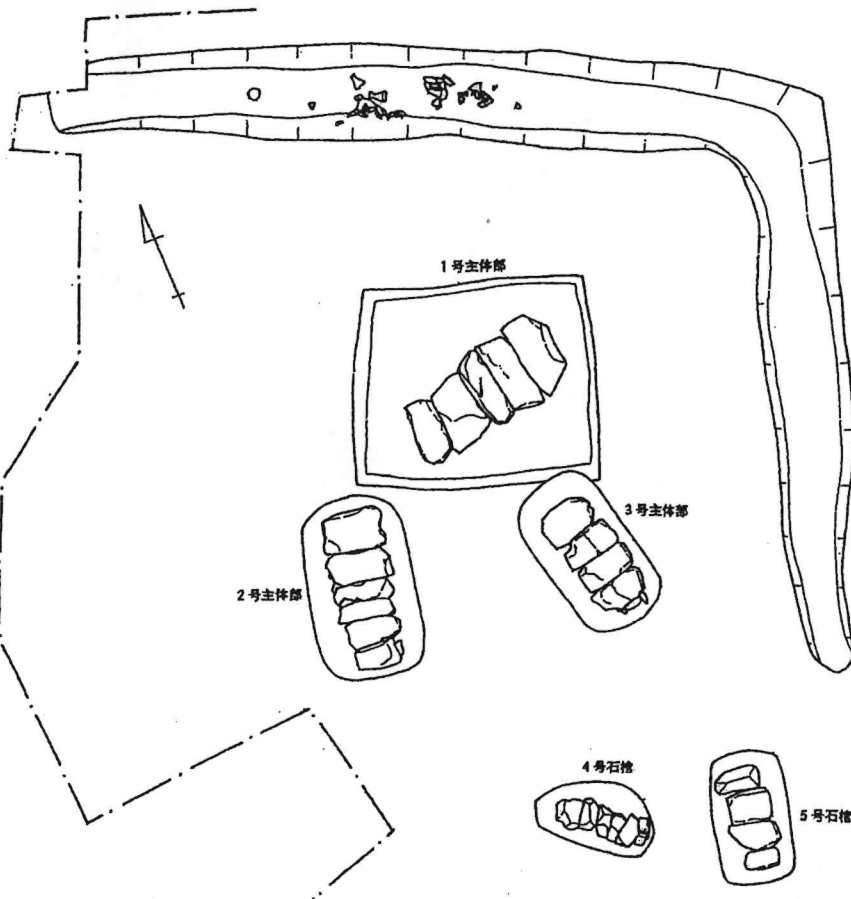
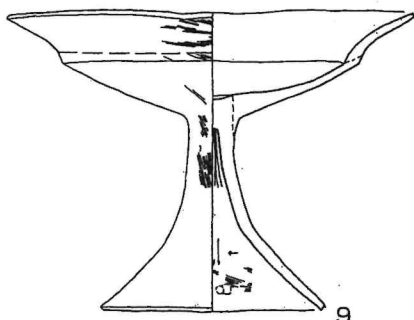
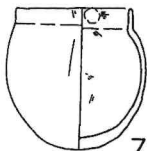
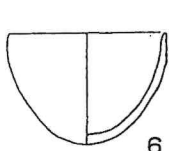
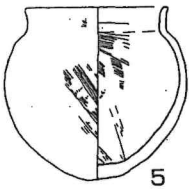
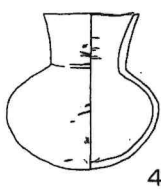
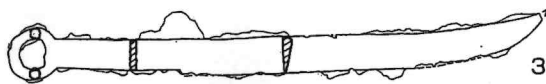
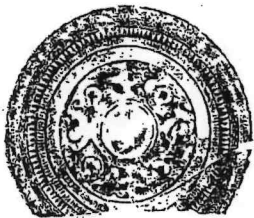
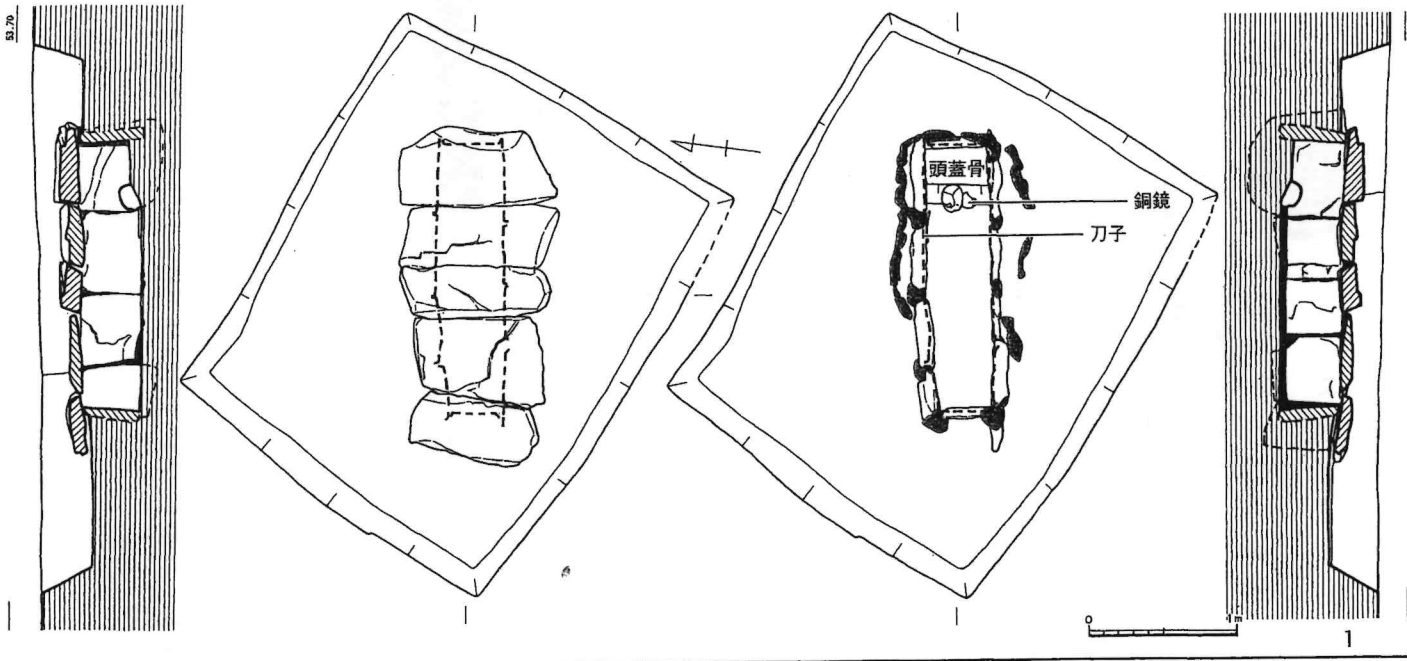
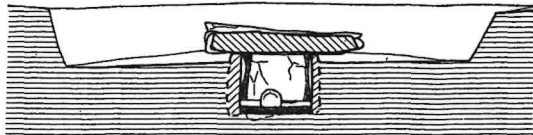


下稗田遺跡出土住居跡・貯蔵穴・土製品・石器・鉄器実測図（縮尺1～10=1/180、他は1/4）



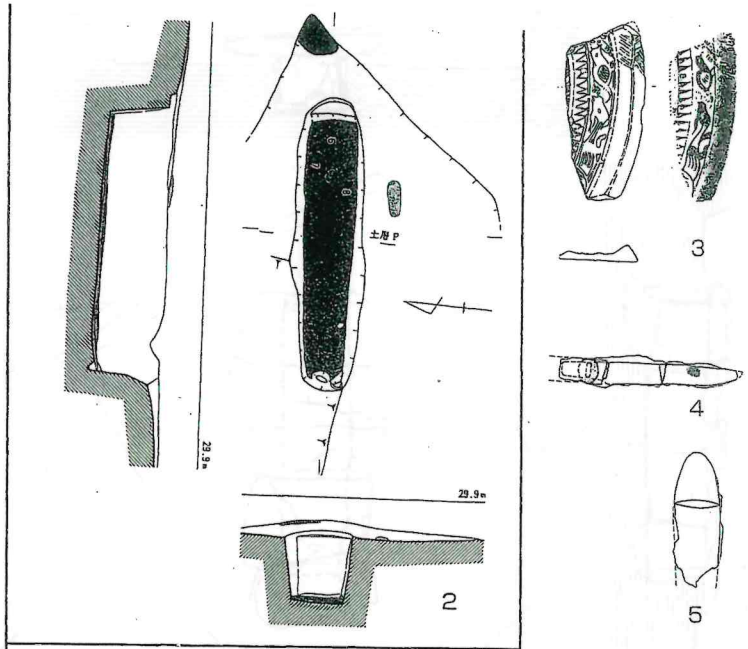
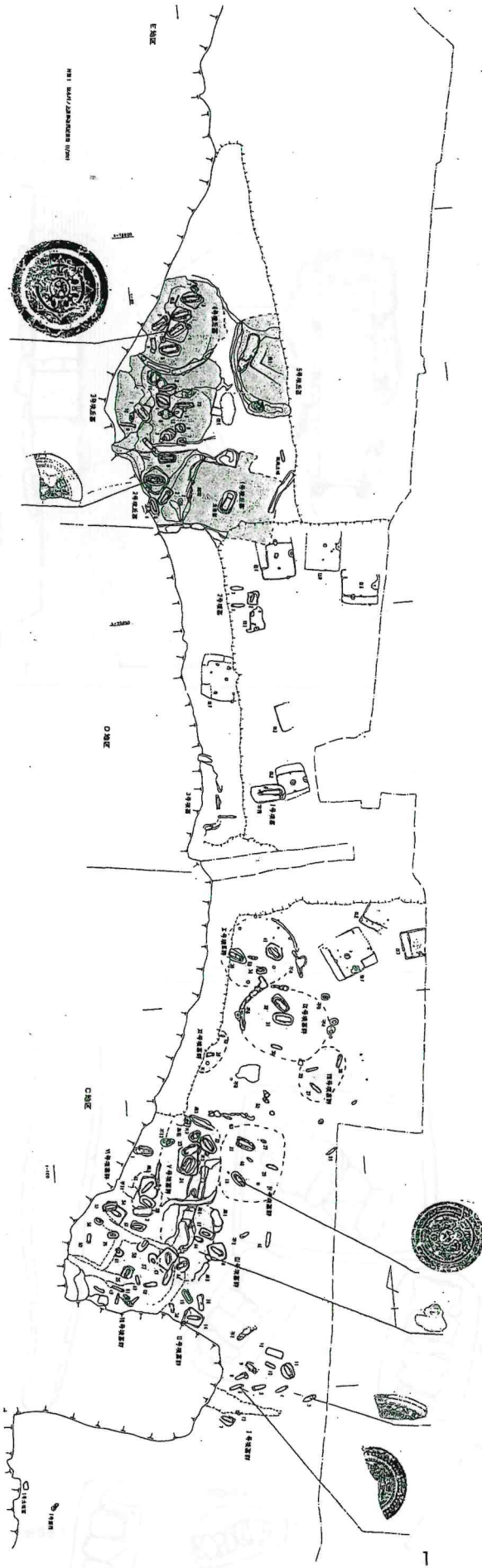
前田山遺跡 I - 3 地区遺構・出土遺物実測図 (縮尺 1・2=1/3、3=1/150、4~6=1/6)

刈田町歴史資料館, 2008『瑞穂の国成立 II 豊前地方出土品』

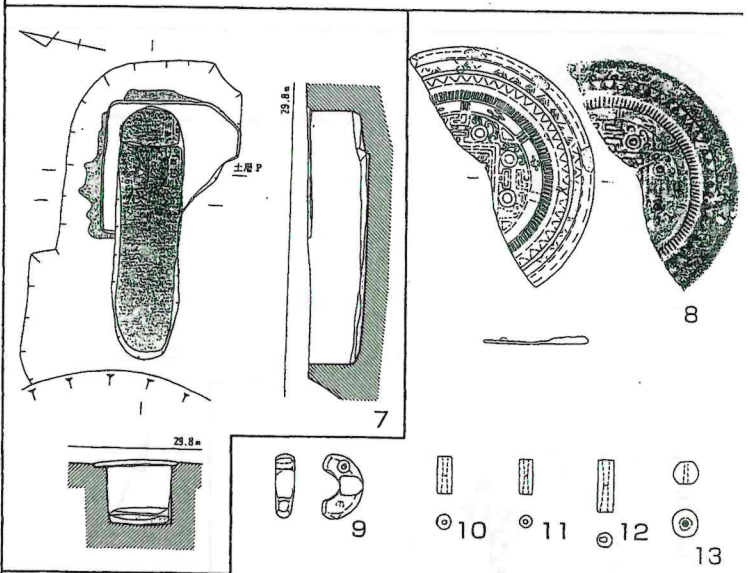


小長川遺跡墓地群

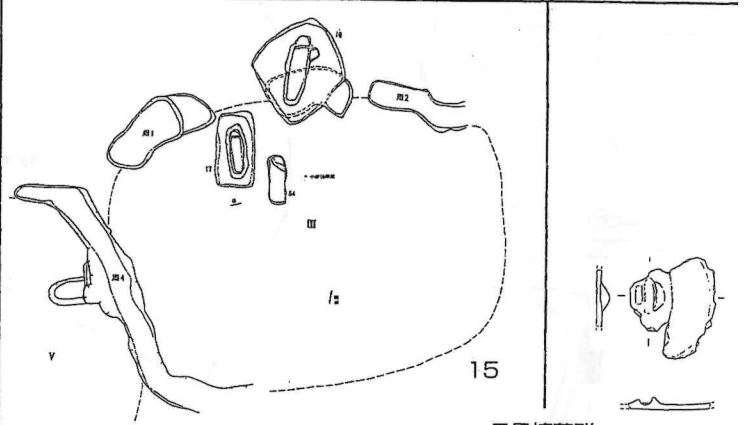
長嶺正秀, 2007 『瑞穂國の成立 I 豊前地方出土青銅器』 苅田町歴史資料館



8号墓と出土遺物



6号墓と出土遺物 14



Ⅲ号墳墓群 16

徳永川ノ上遺跡全測図、6号墓と出土遺物、8号墓と出土遺物、Ⅲ号墳墓群と出土遺物

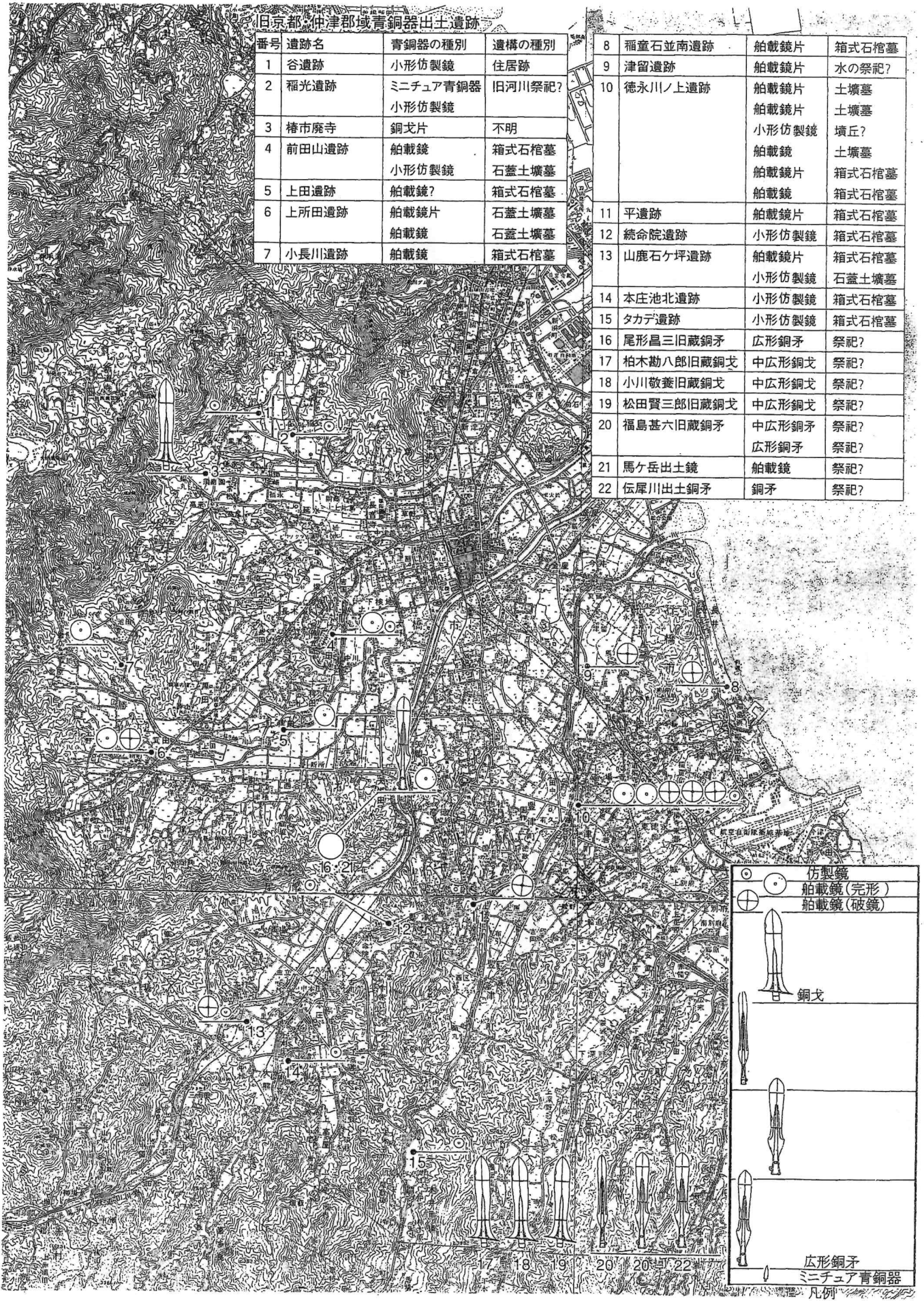
(縮尺 1:1:400, 15=1:200, 2・7=1:50, 3~6・8・14・16=1:3, 9~13=1:12)

長嶺正秀, 2007 『瑞穂の国の成立 I 豊前地方出土青銅器』 苅田町歴史資料館

旧京都・仲津郡域青銅器出土遺跡

番号	遺跡名	青銅器の種別	遺構の種別
1	谷遺跡	小形仿製鏡	住居跡
2	稲光遺跡	ミニチュア青銅器 小形仿製鏡	旧河川祭祀?
3	椿市廃寺	銅戈片	不明
4	前田山遺跡	舶載鏡 小形仿製鏡	箱式石棺墓 石蓋土墳墓
5	上田遺跡	舶載鏡?	箱式石棺墓
6	上所田遺跡	舶載鏡片 舶載鏡	石蓋土墳墓 石蓋土墳墓
7	小長川遺跡	舶載鏡	箱式石棺墓

8	稲童石並南遺跡	舶載鏡片	箱式石棺墓
9	津留遺跡	舶載鏡片	水の祭祀?
10	徳永川ノ上遺跡	舶載鏡片	土墳墓
		舶載鏡片	土墳墓
		小形仿製鏡	墳丘?
		舶載鏡	土墳墓
		舶載鏡片	箱式石棺墓
11	平遺跡	舶載鏡	箱式石棺墓
12	統命院遺跡	小形仿製鏡	箱式石棺墓
13	山鹿石ヶ坪遺跡	舶載鏡片	箱式石棺墓
		小形仿製鏡	石蓋土墳墓
14	本庄池北遺跡	小形仿製鏡	箱式石棺墓
15	タカデ遺跡	小形仿製鏡	箱式石棺墓
16	尾形昌三旧蔵銅矛	広形銅矛	祭祀?
17	柏木勘八郎旧蔵銅戈	中広形銅戈	祭祀?
18	小川敬養旧蔵銅戈	中広形銅戈	祭祀?
19	松田賢三郎旧蔵銅戈	中広形銅戈	祭祀?
20	福島甚六旧蔵銅矛	中広形銅矛	祭祀?
		広形銅矛	祭祀?
21	馬ヶ岳出土鏡	舶載鏡	祭祀?
22	伝犀川出土銅矛	銅矛	祭祀?



旧京都郡・仲津郡域青銅器出土遺跡分布図

長谷正秀, 2007 『瑞穂の國の成立 I 豊前地方出土青銅器』 苅田町歴史資料館



旧京都郡・仲津郡の大型古墳及び前方後円墳分布図

- 1, 石塚山古墳・2, 番塚古墳・3, 御所山古墳・4, 神護古墳・5, 黒添夫婦塚古墳・6, 徳永丸山古墳・7, 八雷古墳・
 8, 寺田川古墳・9, 庄屋塚古墳・10, 箕田丸山古墳・11, 扇八幡古墳・12, 綾塚古墳・13, 橘塚古墳・14, 石並古墳・15, 隼人塚古墳・
 16, ヒメコ塚古墳・17, 惣社古墳・18, 姫神古墳・19, 上大村古墳・20, 大熊古墳・21, 本庄古墳・22, 甲塚方墳・23, 彦徳甲塚古墳

長嶺正秀, 1996 『豊前 石塚山古墳』 葦田町・かんた郷土史研究会



邪馬台国時代の北部九州の「クニグニ」

石野博信 編, 2012 『邪馬台国とは何か 吉野ヶ里遺跡と纏向遺跡』 新泉社

宮原遺跡

(田川郡香春町大字採銅所字原畑)

当遺跡は福智山系の最南端に相当する香春岳の東側、遠賀川の支流の1つ金辺川の上流域の南側の丘陵上先端近くに位置する。当遺跡の箱式石棺墓が発見されたのは明治の終わり頃とされる。

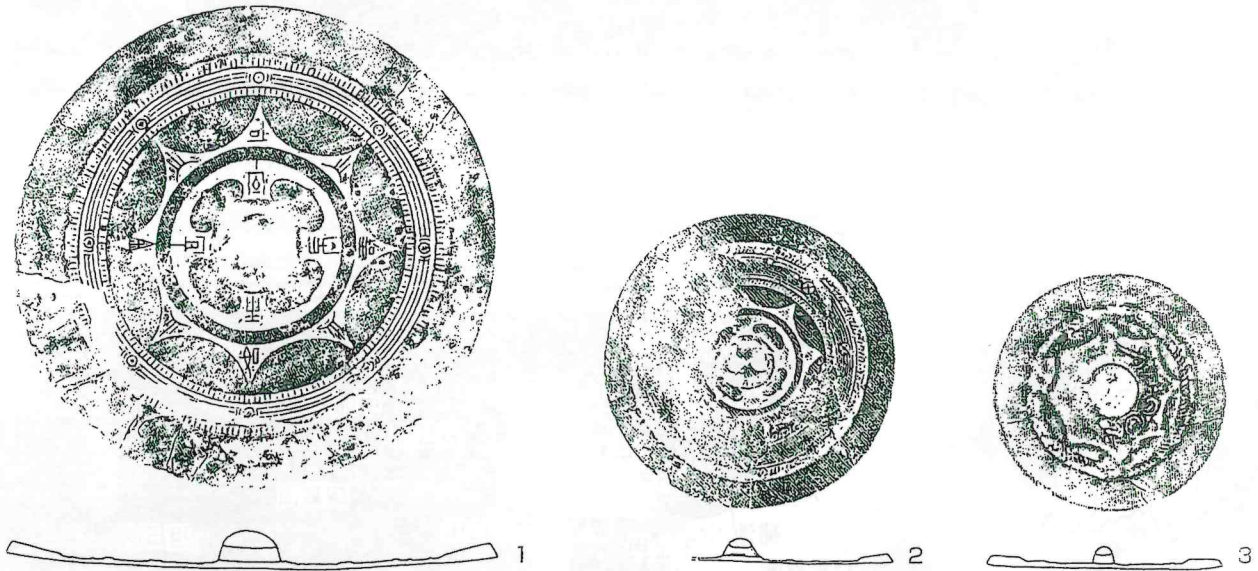
墳丘墓と推察される4基の並列する主体部(箱式石棺墓)が発見されている。報告によれば大型の箱式石棺墓(2号・3号)2基から鉄刀とともに、銅鏡が発見されたという。その中で、腐食が著しかった大形鏡1面と鉄刀は廃棄して詳細不明。残りの大形の舶載鏡は径19.5cmを測り、鏡背の鈕座の4葉間に「長生直子」→内区の内行花文の間「如寿金石」に隷書風の文字が刻印され(内区)→渦文の間が平行線文(外区)→平縁(外縁)となる。もう1面

の舶載の中形鏡は径12.3cmを測る舶載の内行花文鏡。両舶載鏡は、中国後漢代のもので岡村編年5期に相当する。1号主体部から出土した小形仿製鏡は高倉編年Ⅱ型a類に属す。この小形仿製鏡は奈良県野山古墳群池奥支群4号墳東棺出土鏡と同形の兄弟鏡。ちなみに当遺跡出土鏡は弥生時代後期に、野山出土鏡は古墳時代中期に副葬されたもので、年代幅が150年に及ぶ。

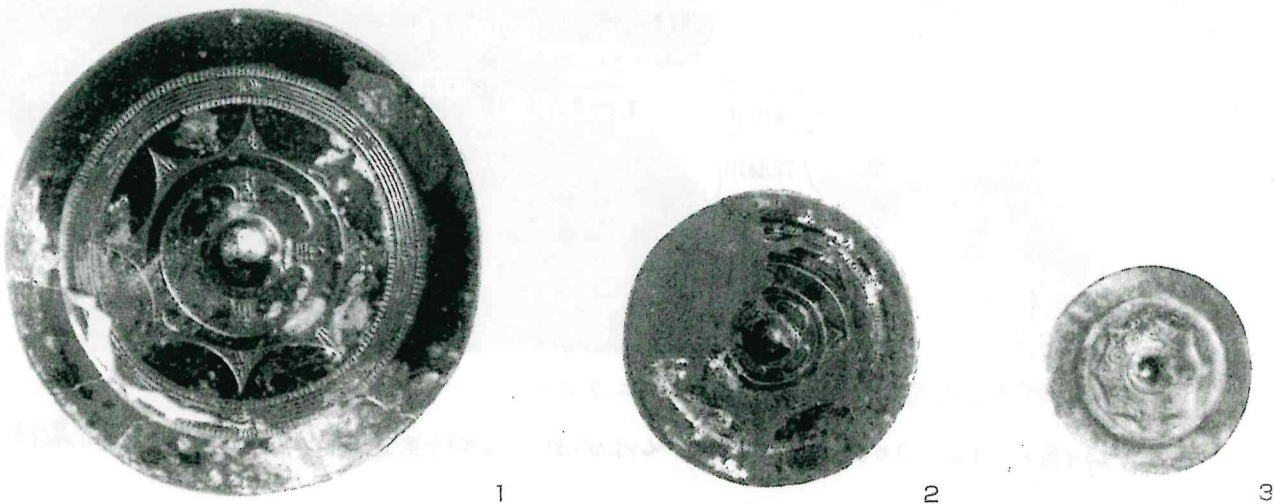
当遺跡は3面の銅鏡以外に情報が少ないが、おそらく特定集団墓=墳丘墓と推察される。その墳丘墓には、当時の威信財とされる2面の大形鏡を含めて様々な副葬品が副葬されていたことが推察される。時期的には弥生後期に該当し、当郡域にも墳丘墓が営まれていたことを物語る資料といえよう。

<参考文献>

原口 信行 1954年 「箱式石棺内出土の内行花文鏡」『考古学雑誌』第40巻3号
 高倉 洋彰 1985年 「弥生時代小形仿製鏡について(承前)」『考古学雑誌』第70巻3号
 長嶺 正秀 1998年 「豊前地域出土の弥生小形仿製鏡について」『稲光遺跡Ⅰ・Ⅱ地区発掘調査概報』
 苅田町教育委員会編 苅田町文化財調査報告書第30集



宮原遺跡出土銅鏡実測図(縮尺1/3)



宮原遺跡出土銅鏡
 苅田町歴史資料館, 2008 『瑞穂の国のかたち Ⅱ 豊前地方出土品』